

令和5年度第1回鶴岡市スポーツ推進審議会 会議概要

○日 時:令和5年8月25日(金) 午後1時25分から午後3時45分まで

○場 所:小真木原総合体育館 2階大会議室

○出席者:委員15名中11名出席

村田久忠会長、山本益生副会長、佐藤祐司委員、里見研委員、丸山春夫委員、佐藤利浩委員、鎌田博子委員、佐藤真紀委員、佐藤しおり委員、川野二三男委員、佐藤満子委員
欠席委員 高橋健彦委員、齋藤隆委員、和田恭司委員、難波理委員

○傍聴者:なし

○協議題等:(1) 鶴岡市スポーツ推進計画(後期)の評価・検証について

→委員からの主な意見は以下のとおり

(2) 第2期鶴岡市スポーツ推進計画策定に向けた見直し方針について

→委員からの主な意見は以下のとおり

(3) その他

→なし

(1) 鶴岡市スポーツ推進計画(後期)の評価・検証について(委員から出された意見)

- ・幼児期の子ども達への対応として遊びが大事で、そこでスポーツの楽しさを知ってもらい、そしてその延長線上で、スポーツ少年団につながっていくものだと思います。先ほどの説明の中でも、スポーツ少年団の指導員の数が、制度も変わったということもありますが、減ってきています。団員の人数が減ってきている中で、スポーツ少年団とスポーツクラブとの関係など、制度的にも変化がある中であって、やはり子どもの環境を、これからも支援していかなければと思いました。
- ・スポーツツーリズムという観点から真剣に取り組んでいく必要があります。スポーツ課だけでなく、商工観光部との連携や商工会議所等の商工団体が連携して、取り組むことが必要で、スポーツイベント、競技大会について情報の一元管理、情報共有し、スポーツツーリズムについて取り組むことが重要だと思いました。
- ・鶴岡市中学校部活動等に関する基本計画の中に、「知・徳・体」のバランスがとれた「生きる力」を育みとあり、昔でいう「身・体」ではないのですけれど気力など精神的なところについても、大事だと思っています。
- ・スポーツ少年団や部活動というのが、今までのような在り方ではなかなか存在が難しくなっていると思っています。学校開放の利用について今までですと、学区や小学校区でのスポーツ少年団や地域の部活動、大人の団体が利用していましたが、地域を超えた子どものクラブチームがどんどんと出来て変化が激しい時期で、地域の子どもが数人いてあとは、別の地域の子どもがいるチームが利用するなど、チームの活動を把握できないようなチームの利用が増えてきています。学校開放も変化していると思います。子どもが少なくなっていることもあり、地元のスポーツ少年団に入ってほしいのがありますが、クラブチームに行きたいと思う子どももいて様々で難しいところです。

- ・施設設備が老朽化して修理や補修をお願いしたいところがあります。7月に小真木原陸上競技場で県大会があり、補修されていないところで選手がつまずいて転んでしまいました。他にも補修が必要などところが見受けられました。成果検証のところでも上位大会を誘致したいとありましたが、設備面でそれに見合った整備をしていかなければならないのではないかと思います。予算との関連もありますが、故障破損している部分についての修理を迅速にさせていただけるとありがたいと思います。
- ・前回と今回のアンケート調査で、どんな運動をやっていますかという問の中で、だんとつでウォーキングでした。やはり「歩かなければ歩けなくなる」という大きな目標を立てて、鶴岡市で推進してきた結果なのだろうと思います。小真木原公園のウォーキングコースの中に、ストレッチやぶら下がり器具の設置をして、夜間も、安全に運動ができるように、照明施設も整備していることが、ウォーキングを支えていると思います。
- ・取組検証課題の中での優先順位はどうなっているのでしょうか。例えば、今年の全中サッカー大会では、特に洋式トイレが不足していました。今の子どもたちが使いやすいものになっているのか。やっぱり必要最小限として整備するべきところだと思います。
- ・各競技団体に関しては、すでにそれぞれの目標設定がされ、指導体制ももう統一をされています。全体的な環境整備が追いついていないのが指導者の体制ではないかと思います。指導者の環境について計画の中で整理していく必要があります。少子高齢化が進む中、賃金が上がらず夫婦共働き世帯が増え、このままでは、恐らくスポーツ活動が今までのようにいかなくなると思いますので、ここで一緒に議論していく必要があると実感しています。
- ・まず少子高齢化ということで、子どもの数が少なくなっている中、高齢者は多くなっていますが、動ける高齢者が多くなっているわけではないことからすると、どうしてもスポーツ活動に関わる人は少なくなっています。各地域にいろいろな体育施設がありますが、建設から年数が経過しており、修繕が非常に大きな負担になってくるのかなと思っています。特に今の時代は、男女共同参画の時代ですので、誰でもどこでも気軽に使えるような施設の在り方、トイレの洋式化の問題、電気料金が高くなっていますので夜間に利用できる施設の省力化した照明設備の設置などの対応が必要なのではないかと思っています。
- ・各施設に指導できる人員体制があれば、非常にありがたい。調査結果を見ると、20代からの人がなかなか運動する機会がないようです。仕事の関係もあるのかもしれませんが、団体競技、個人のウォーキングをすることもありますが、団体競技で企業のチームが少なくなっています。地域のチームも、少子高齢化でなかなか編成出来なくなっています。市民総体の参加チームも、そういう中で少なくなっているのが課題なのではないでしょうか。
- ・幼児期の遊びを通した体づくり心づくりですが、そういう場所がちょっと少ないのではないかなと思います。体育施設、野外施設はたくさんありますが、鼠ヶ関マリーナなどありますが、指導者を養成・発掘しながら、子供の遊びを通した心と体づくりに、もう少し力を入れてほしいと思います。

- ・旧鶴岡病院跡地は、いろいろな団体から要望が多いと思いますが、ぜひ、野外活動ができるような場所として、金峰少年自然の家と連携して、野外を散策しながら、子どもたちが自然を学んだり、自然の中の危険を学ぶ機会を作ってほしいと思います。子どもだけのコース、親子のコース、地域のコースと、いろんなものを計画していただけたらうれしいと思います。レクリエーション協会も、勉強して、お手伝いできるところはしていきたいと思っています。
- ・先ほどトイレ洋式化についていろいろ出てますが、障害者にとって本当に使いやすい施設になっているのかなといつも思います。トイレの改修、更衣室は必要ないのかななどを検討する必要があるのではないのでしょうか。障害者が、もう少し気軽に利用できる施設になればといつも思っています。
- ・羽黒にボッチャのコートが常設されており、大変すばらしいですが、施設までの距離、トイレなどの設備について、障害者の方が利用しやすいものになっているのか、これから検討してほしいと考えています。
- ・総合型地域スポーツクラブを設立しましたが、今の状況としては、中学校部活動や少子化に伴い、スポーツクラブの在り方、考え方に変化が来てると思います。スポーツクラブでは、8つの部活動の放課後、夜の活動を受入れしておりますが、子どもたちが少なくなり、2つの部活が活動停止、3年生卒業後活動停止になり、練習も出来なくなり、合同チームで活動している部活もあり、減少しています。そのような中で、やはりスポーツ少年団との連携しながら活動をしていかなければならないと思っております。
- ・スポーツクラブでは、子どもたちを自由に、受入れをしていて、今1番人気なのがスポーツ少年団にはなれませんが、トランポリン教室です。30名くらい来ていますが、やはり、指導者不足はありますが、2台のトランポリンを使いながら、みんなで楽しみながら親子で、活動しております。タグラグビーもしたことがあります。地域独自のもので子どもたちを楽しませています。いろいろやっておりますが、集客できる範囲も、ちょっと底をついてきております。どうしたら子どもたちが楽しめるのか先日小学校の校長先生とお話した中で、学校教育の教育指導要綱も大分変わっているようでした。夏祭りの相撲大会をしようとしたところ、小体連の相撲大会がまずなくなっており、相撲の指導要綱もなくなりましたということで、子どもたちが相撲に触れる機会はなくなりました。そこで、スポーツクラブと地域の活動センターなどと協力して相撲大会を開催しようとしたところ WBGT の熱中症対策ということで、中止せざるを得なくなりました。そういった関連がいっぱいあります。
- ・中学校の部活でテニスコートが荒れていてつまずいてけがをしました。活動を支援している側のスポーツクラブとしては、そういう設備の不備についても、部活ではありながらも、把握しながら活動をしなければならないと思いましたが、各所との連携が、必要だと思いました。それぞれの部署では分かっても、その連携がなされていないことで活動に支障を来すことがあると感じました。
- ・地域で少人数から50人くらいの健康づくり教室をしており、にこふるなどを使っていますが、健康課事業が優先されることから会場がふさがっていて利用できないことがあります。

す。活動したい人が活動したい時に活動できる場の確保が課題となっています。スポーツ施設やコミセン・公民館などの施設の空き情報を把握できて、飛び込みでも施設を貸していただくと、探すのが面倒だから諦めて休むということにならず、活動しやすくなると思います。

- ・いろいろな健康教室を開催していますが、教室情報、出張教室もできるということを知らない人もいます。イベントの情報が届いていない人に参加してもらえるような告知が必要だと思っています。わたしたちも努力していきますので、スポーツ課だけでなく、健康課や長寿介護課にも協力をお願いしたいと思います。
- ・子どもが遊ぶところがないというのは本当に感じています。鶴岡には海か山しかありませんが、ワイルドな自然よりも少し初心者でも楽しめるものがあればと思っています。赤川かわまちづくりの会議にも参加しますが、赤川の河川敷の公園などを整備して、子どもが遊ぶところ、大人が運動できるところをつくり、川と親しめるまちになるように検討していますが、都市計画課だけでなく、スポーツ課、健康課との事業全部を総合してやるともっといいものができるのではないかと考えています。赤川のスペースを使って、遊べる場所を作り、子どもが運動に親しめる環境を作ることでスポーツに親しみ、国際大会に出場した後鶴岡に帰ってきて、またスポーツが発展することになるようなサイクルができると鶴岡は住みやすい、住んでみたい街になるのではないかと考えています。
- ・3年間コロナ禍でほとんど事業ができなくて、今年度ようやく事業ができるようになりました。事業ができない期間も、広報などで資料提供などをしていました。コロナ禍で運動できなかった時期がありましたが、施設利用者数が回復しつつある。その中で小学校でも競技スポーツをしていましたが、最近、競技スポーツのスポーツ少年団に入る子どもたちが、非常に少なくなり、2小学区では、地区型のクラブ活動をやってる子供たちが非常に少ないというのが現状です。町内対抗の子どものスポーツ大会をしていましたが以前は、卓球やキックベースボールをしていましたが、やる人が少なくて卓球大会はできなくなり、今年はポッチャ大会にしようと考えていますが、スポーツをやらない子もいて、逆にやってる人も限られています。そういうこともあり、競技スポーツでない、パラリンピックで障害者スポーツで誰でもできるニュースポーツとして、子どもたちも見てますので、ポッチャとモルックをやってみます。そのための用具は、スポーツ課に揃っています。また、毎年開催しているシルバーレクスポ大会は、いつもですと4種目でしていましたが、コロナ禍でたくさん人を集めることができないということで、ニュースポーツであるポッチャ大会をやろうということになり、ポッチャ大会をさせていただきました。チーム数を限定した中ではありましたが、本当に楽しく、やってよかったという声が多く出て、自分の地区でもやってみたくなり、広がりを見せています。参加できなかった地区も楽しかったことを聞きつけて、うちの方でもやりたいという声も聞こえてきています。ポッチャやモルックは、競技レベルに関係なく誰でもできるスポーツだと思います。レベルに関係なく誰でもできるスポーツなので、その辺を重点的に地区体育協会連絡協議会の方でも進めていきたいと思っています。
- ・羽黒体育センターは、ポッチャのラインが床に引いてあり、行くとすぐポッチャができます。

身体障害者福祉協会では、月2回、別の場所でボッチャの練習していますが、ライン引きから始まり、終わった後にラインのテープを剥がさなければならず、苦勞しています。羽黒体育センターは、床材もよく、ラインも引いてありますが、トイレが洋式化されていないこと、段差があることなど不備がありなかなか使えません。競技の設備としては、すごくいい施設ですが、他の委員からも意見が出ていますトイレの洋式化がされておらず、利用することができなくて歯がゆい思いがあります。施設整備の中でトイレ洋式化の優先順位が上がるように考えていただければと思います。

- ・ボッチャの普及が進んでいると話があり、楽しむ方が増えているようですが、障害者スポーツとして、令和3年度から全国障害者スポーツ大会の公式種目になりました。参加したい人はたくさんいるのですが、障害程度の区分として重度障害となっていることからなかなか参加できない状況です。そのような中、鶴岡市身体障害者福祉協会から今年10月の全国大会にボッチャ競技で出場する切符を手に入れ、県選手団20名と一緒に参加します。20名の中に、鶴岡市からは、愛光園のフライングディスクが2名と、協会からボッチャが1名の3名が、10月26日鹿児島での全国大会に出場しますので、応援をよろしく願います。
- ・障害者がチャレンジするスポーツ大会としては、全国障害者スポーツ大会の選考となります県障害者スポーツ大会の予選会で、今年は、ボッチャ、卓球、陸上競技に参加しました。陸上競技に参加したい選手は、視覚と聴覚の重複の障害を持っている方でした。その方が、50mと100mに出ることになったときに、どのように練習すればいいかということでもかなり困っておりました。今回は、市のボランティアセンターの協力をいただき練習につき合っていただきましたが、本当に苦勞したようでした。後半は、駅伝に出たことがある方の協力をいただいて競技に役立ついい指導をしていただき大変よかったと聞いております。大会に挑むときに、応援協力指導してほしいときに、どこに相談、すればいいのか、協力をいただける機関はどこなのか。身体・知的・精神、難病等、障害のある方が、スポーツを楽しんで、なおかつ競技スポーツにもチャレンジしたいときの相談体制、指導者養成を含む体制も検討していただけるようお願いしたいと思います。
- ・障害者福祉協会の卓球競技は、月1回練習していますが、今年度から高等養護学校の生徒さんが一緒に参加しています。高等養護学校は、部活動ができていないということで、参加している2名の方はすごく楽しんでやっておりますし、これからスポーツをもっとチャレンジしたいという方が増えて、盛り上がり競技力をつけてあげられるように、皆様からご指導、ご協力をお願いします。
- ・この評価・検証・課題の中には、長年の課題というのがたくさんあり、懸案事項を先送りしてきたことが伺えます。市民の要望としては、自分が関係するスポーツに対してのそれぞれの要望を持ってくるとは思いますが、予算には限りがあると思いますので優先順位をつけてやっていただければと思います。体育施設は、どこも国体の時に建設していて、30年以上経過しています。雨漏り、トイレの洋式化、バリアフリーなど様々ありますが大きく改善されていないのが現状ですが、危険なところは改修が必要ですので予算化をお願いします。優先順位があるということも理解してもらおう政策が必要だろうと思います。

- ・近年の課題としては、子どもたちのスポーツ活動としての部活動地域移行があります。スポーツ少年団は、今までは小学校区単位での活動であって、学校と連携してきた活動してきましたが、学校を離れたクラブに入る子どもたち多くなっています。小学生の数は減る傾向ですが、その中で、それぞれの競技団体は減っているわけではなく、まだたくさんありますので、どういうふうに競技団体と調整するかが課題です。これからの部活動、スポーツ少年団の在り方の議論がされているところですが、今のままでいいというものではありません。これからは小学生と中学生と一緒に、もっと少ないところは大人も交えてスポーツ活動をするようになっていくのではないかと考えています。全体的な在り方についてみなさまと検討していければと思います。

(2)第2期鶴岡市スポーツ推進計画策定に向けた見直し方針について

1. 鶴岡市スポーツ推進計画見直しの背景と今後の推進計画(案)

【教育委員会として案2を提案することについてのご意見】

- ・市の考え方として、今回5年計画を策定し、その後の令和11年度から市総合計画に組み入れて、スポーツ振興をしていくということではないか。
- ・異議なし。

【策定に向けた見直し方針】

- ・事務局から市総合計画の説明がありましたが、市総合計画の市民スポーツ振興という中に、いろんなものがプレスをしてあります。現在市総合計画の審議会をしているようですが、この(案)にここで反論していいのでしょうか。「イ地域の活力となる競技スポーツの振興」の主な施策に「中学校部活動地域移行の受皿として想定される総合型地域スポーツクラブや、スポーツ少年団などへの支援・育成」とありますが、子どもたちのために頑張っているクラブチームの人たちへの支援はどうなるのか。本当にこれでいいのか疑問に思っています。ここで市総合計画について議論するのは正しいことなのでしょうか。
- これからの進め方も含めて説明します。説明の中で、みなさまからスポーツ推進計画の柱を作って出してくださいと思わせてしまったところがあったかもしれませんが、市総合計画(案)の説明資料は、今総合計画の議論の中で進んでいるもので、第2期スポーツ推進計画をどう策定していくかという中で、上位計画である市総合計画のスポーツ推進とできるだけずれがないようにしていくために説明したものです。このスポーツ推進審議会では、スポーツ推進計画をどう進めていくかを議論させていただきますので、本日いただいたご指摘のご意見と出し切れなかったご意見等をFAX等でいただきたいのです。次回第2回審議会まで事務局がある程度計画の骨子をつくり、それについて皆様と議論させていただくイメージとなります。その中で、市総合計画に挙げた方がいいものがあるのに、何も意見できないのではなく、スポーツ推進計画として、必要があればやっぱりこういうところも挙げたほうがいいのではないかと、もっと検討が必要なのではないかという意見を皆様からいただいて、今後に結び付けていければと思っています。先ほど皆様から一巡お話していただいて、会長からもまとめていただきましたけれど、課題を先送りして

きた中で、社会変化が進みいよいよ厳しくなってきた、これからどうするのかというところだと思います。課題としましては、人口減少、高齢化してる中で、子どもたちをどうしていくのか、経済成長の度合いが変わっていった中で、建設後40年以上経過する施設をどうしていくのか。経済成長が下がっている中での指導者の確保・支援、誰一人取り残されない社会になっているのかなど課題はたくさんありますので、市総合計画の大きい柱のつくりと、それに合わせたスポーツ推進計画のつくり方を整理していきたいと思いますので、お気づきの点を挙げていただき、事務局の方で、会長とも相談しながら、計画案をつくっていく形で進めていきたいと思いますので、御理解いただければと思います。

(3)その他

→なし